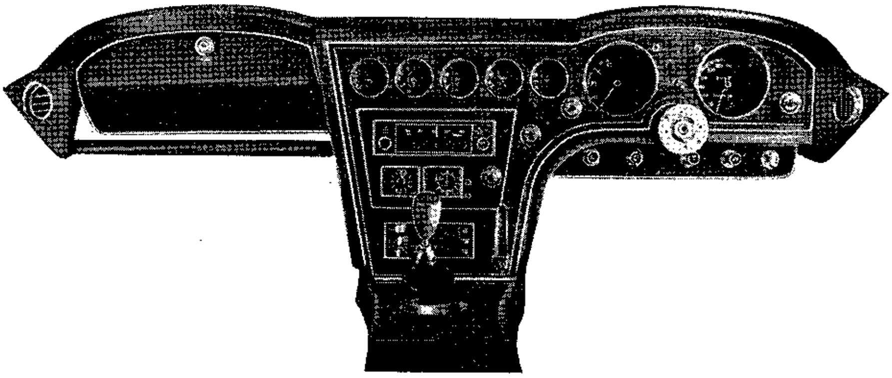
補　機　関　係

補 機 概 要

トヨタ2000GTの補機類は安全性，操作性，居住性を考慮にいれた設計がしてあります。内装面では見やすいメータ類，操作が容易で確実なタンブラ　タイプのスイッチ類を採用し，さらにはストップ付き時計などの豊富なアクセサリを備えています。また強力なヒータおよびバック　ウインドウ　デフロスタによつて安全快適な走行ができます。

外装面ではワイヤ式ワイパ　アームおよび砲弾型リヤ　ビユー　ミラーを採用し，さらにはリトラクタブル（格納式）ヘツドランプにより空気抵抗を著しく減ずるなど高速走行に適するよう随所に配慮してあります。

1. 計　器　盤



第92図　計　器　盤　　V2105

計器盤は木目張りで落ちついたふんい気をだしています。タコメータおよびスピードメータは中央部分が手前に突出たコーン型ガラスを使用し，さらに運転席正面に深く埋めこんでありますので外からの光はすべて周囲の黒色フードで吸収され反射しません。

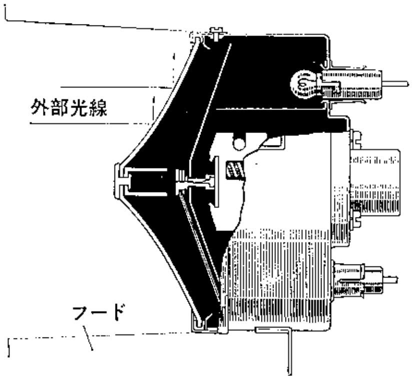
タコメータの左方にはアンメータ，ウオータ　テンパラチヤ　ゲージ，オイル　テンパラチヤゲージ，オイル　プレツシヤ　ゲージ，フユーエル　ゲージが計器盤に埋めこんであります。各ゲージには無反射ガラス（表面粗度を大きくしたガラス）を使用し，かつ運転席の方へ傾けてありますのでひじように見やすく楽に運転できます。

また夜間メータ類の照明の明かるさは，ライテイング　スイッチ　ノブを回転させることにより調整できます。ノブは右へまわすほど暗くなり，いつぱいまわせば照明ランプは消えます。

無断複製禁止

1-1　タコメータ

タコメータ駆動ケーブルはエンジン前部，ポンプ ドライブ シャフトより取出しています（第33図参照）。メータのガラス面での反射を防止するためコーン型ガラスを使用しています。外部からの光線は下図のように反射しますので，あらゆる条件でメータの指示が確実に読みとれます。



第93図　無反射機構

タコメータ仕様

最大目盛	9,000r.p.m
注意回転域（イエロ ゾーン）	6,800~7,500r.p.m（注意標示のため黄色）
危険回転域（レッド ゾーン）	7,500~9000r.p.m.（危険標示のための赤色）
駆動軸	駆動軸1,000r.p.mにて4,000r.p.m指示

注…上記のイエロ ゾーンとレッド ゾーンの回転数はエンジンをレーシング チユーンナップした場合の値になつています。
号口エンジンの許容最高回転数は7,000r.p.mで，6,600r.p.m 以上での連続使用はさけてください。

1-2　スピードメータ

スピードメータ仕様

最大目盛	250km/h
速度計	駆動軸637r.p.mにて60km/h指示
距離計	駆動軸637回転にて1km積算

1-3　その他のゲージ類

フユーエル ゲージなどつぎのゲージ類にはその目盛に必ずしも全部数値が記入してないものがありますが，各目盛は次の数値を意味します。

無断複製禁止

メータ類目盛表示

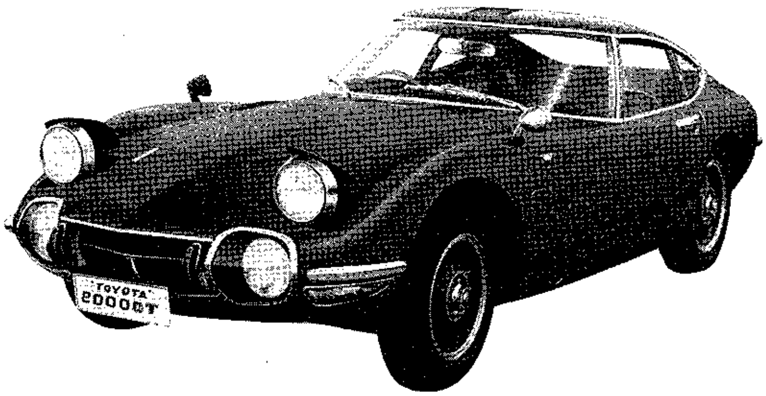
フユーエル ゲージ	E, ½, F (満量60ℓ)
オイル プレツシヤ ゲージ	0, 1, 2, 3, 4, 5, 8 kg/cm²
オイル テンパラチヤ ゲージ	50, 70, 80, 90, 100, 110, 120, 130 °C (110〜130 °C 間は危険標示のため赤色)
ウオータ テンパラチヤ ゲージ	50, 60, 70, 80, 90, 100, 110 °C (100〜110 °C 間は危険標示のため赤色 サーモ インジケータ ランプ(緑色)組みこみ)
アンメータ	0, ±10, ±20, ±30, ±40, ±50 A

2. ランプ類とスイツチ

2-1 ヘツドランプ

ヘツドランプはリトラクタブル（格納式）のもので昼間ヘツドランプを使用しないときはフエンダ内に格納し，高速走行時の空気抵抗を著しく少なくしています。

ヘツドランプ	12V, 50/40W×2個



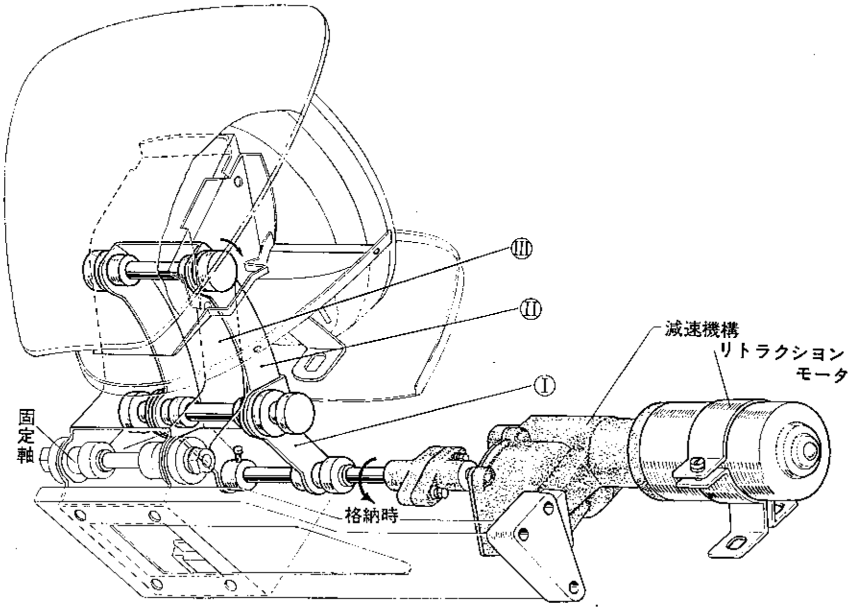
第94図　リトラクタブル ヘツドランプ　V2106

リトラクシヨン スイツチ（格納スイツチ）

リトラクシヨン スイツチはタンブラ タイプのスイツチで自動復元式です。スイツチを上に倒せばヘツドランプはフエンダ上にもち上がり，スイツチを下に倒せばヘツドランプは格納されます。またヘツドランプ格納時，ランプの消し忘れを防止するためセーフテイ スイツチがついていますので，格納してあるときにライテイング スイツチを操作してもヘツドランプは点灯しません。

無断複製禁止

リトラクションョン作動



第95図　リンク関係図　Y5089

リトラクション　モータの回転は歯車で減速されたのち，リンクⅠ，Ⅱを動かし，それにつれて固定軸を中心にリンクⅢが回転しヘッドラップを上げ下げします。

図はヘッドランプが上昇したときのリンク関係位置をしめします。格納するときは矢印の方向にリンクが回転し，ヘッドランプは格納されます（このときヘッドランプは使用時の状態より48°下向きの状態で格納されます)。

リトラクション　モータ仕様　(減速後)

モータ種類	直流直巻
定格電圧	12V
拘束電流	5A以下
拘束トルク	60kg-cm以上
無負荷回転数	6r.p.m以上
無負荷電流	1.5A以下
負荷回転数	2r.p.m.以上(28～32kg-cmにて)
負荷電流	2.5A以下(28～32kg-cmにて)
時間定格	連続
回転方向	左右
減速比	2:43，2:41の2段減速

無断複製禁止

2-2 フオグ ランプ

フオグ ランプは標準装備で，オールウエザ タイプ ヘツドランプとの併用により霧中での走行を一段と容易にしています。フオグ ランプはヘツドランプがロー ビームのときのみ，フオグ ランプ スイツチを上に倒せば点灯します。

フオグランプ	12V，35W×2個

2-3 ターン シグナル ランプ

フロント ターン シグナル ランプはボデーの曲面に合わせた大型レンズを使用していますので，側方からも容易に確認できます。

2-4 カーテシ ランプ（マツプ ランプ）

車内にはドーム ランプのほか，ダツシユ ボード左右の下側にカーテシ ランプを取付け3個のドアと連動させることにより乗り降り，荷物の出し入れに便利になつております。

また助手席側カーテシ ランプはマツプ ランプとしても役立つよう，ランプの横に点滅スイツチ（プル スイツチ）が設けてあります。

またグローブ ボツクス内にもふたを開けると点灯するランプが装備してあります。

カーテシ ランプ（マツプ ランプ兼用）	12V6W×2個

3. ウインドシールド ワイパ

ワイパは高速走行時における浮上がりを防止した ワイヤ式ワイパ アームを採用しています。ワイパ ブレードは全長356 mm のもので拭い面積が広く運転しやすいよう設計してあります。ワイパ モータは助手席レツグ ルーム前方上方にあります。

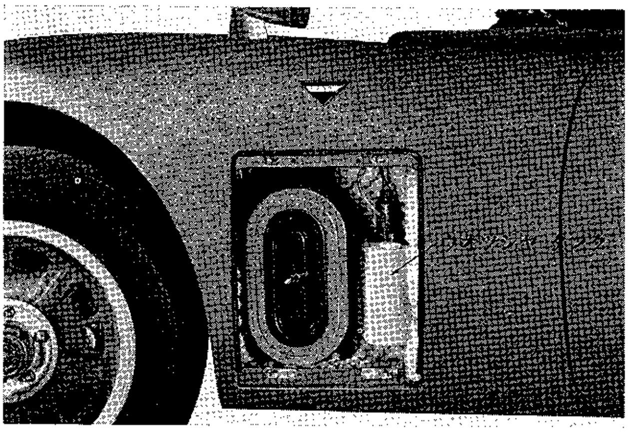
ウインドシールド ワイパ仕様

モータ種類	直流直巻
定格電圧	12V
ぬぐい角度（右）	107～113°
（左）	98～104°
ぬぐい速度（高速）	60～80r.p.m（6kg-cmにて）
（低速）	36～43r.p.m.（6kg-cmにて）
モータ最大回転力（高速）	2r.p.m以上（50kg-cmにて）
（低速）	2r.p.m以上（70kg-cmにて）
モータ拘束電流	15A以下
無負荷電流	5A以下

無断複製禁止

4. ウインドシールド ウオツシヤ

ウインドシールド ウオツシヤは噴射方向調整の容易なパイプ式ノズルを使用しています。ウオツシヤ タンクは左前フエンダのサービス リツド内に格納してあります。

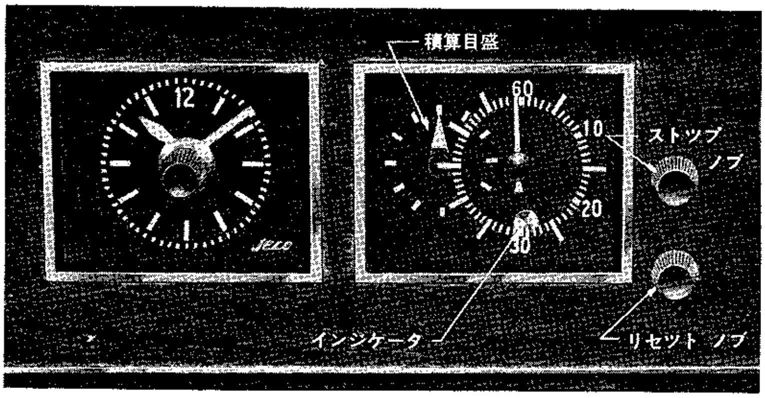


第96図　ウオツシヤ タンク位置　　V2107

5. 時　　計

時計は2個ついており，左側は普通の時計，右側はストツプ付き時計です。ストツプ付き時計は右側のストツプ ノブを押せば0分から動きはじめ，もう一度押せば指針はその指示時刻でとまります（単位は分)。ストツプノブをもう一度押せば時計は再び作動し計測時間を積算します。リセツト ノブを押せば指針は0分の位置まで戻ります。計測時間が60分をこえるものについては時計内の左方にある積算目盛が記録します（最大目盛は12時間）。

時計の作動中はインジケータが回転して一目でわかるようになつています。



第97図　時　　計　　V2108

無断複製禁止

6. ラジオおよびモータ アンテナ

6-1 ラ　ジ　オ

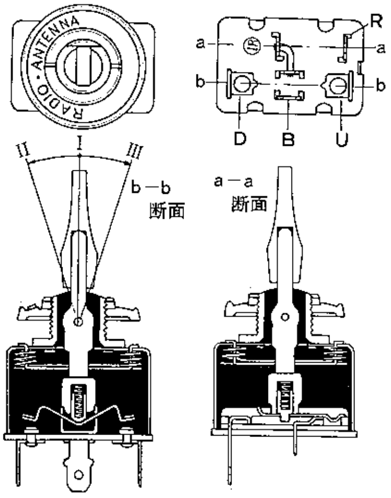
ラジオは自動サーチを有する高周波増巾付きスーパ ヘテロダイン式トランジスタ ラジオ（中波専用）です。同調は自動同調，プツシユ ボタン（6個）および手動同調の3つの方法でできます。スピーカはインストルメント パネル上面中央部にあります。

6-2 モータ アンテナ

モータ アンテナ仕様

使用時電流	7A以下
作動所要時間	3秒以下
ポール全長	900mm
ポール駆動力	1kg
フィーダ長さ	3,570mm
フィーダ静電容量	70PF(フィーダ単体)

6-3 ラジオ，アンテナ スイッチ



第99図　スイッチ端子　G0100

端子 / スイッチ位置	B 電源	U アンテナ上昇	D アンテナ下降	R ラジオ
II	○—	—○—	—○	
I→II→I	○—	—○		
I→III→I	○			
III	○—	—	—	—○

第98図　スイッチ結線図　G0099

ラジオ アンテナ スイッチは時計の右側にある自動復帰式タンブラ タイプのスイッチでモータ アンテナ スイッチとラジオ電源スイッチとを兼ねています。アンテナ スイッチを上に倒せばアンテナは上昇し，同時にラジオの電源がはいり，スイッチを下に倒せばアンテナは下降しラジオの電源は切れます。

アンテナの高さを低くするためアンテナ スイッチ を下に倒すとラジオの電源は切れますので，その際はもう一度スイッチを軽く上に倒せばラジオの電源ははいります。

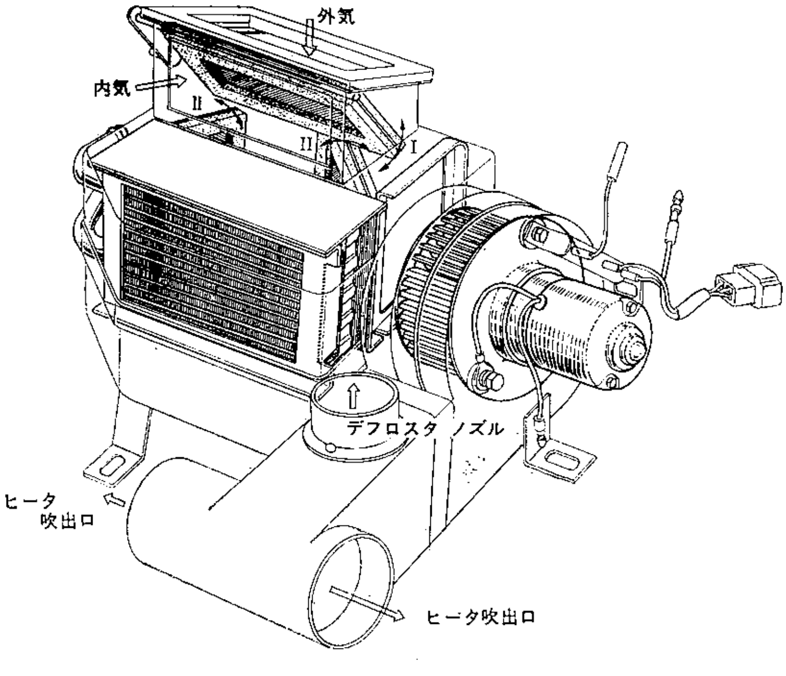
アンテナの高さは任意の位置（最高900mm）でスイッチを切ればとまります。

無断複製禁止

7. ヒータおよびバツク ウインドウ デフロスタ

7-1 ヒ　ー　タ

ヒータは温度調節の容易なエア ミツクス（内外気・冷温気混合）方式のもので，3段強力ファンを装備しています。計器盤中央のヒータ コントロールによつて内外気切替，温度調節およびファン調節を行ないます。



第100図　ヒ　ー　タ　構　成　　Y5090

内外気の切替はヒータ ユニツトのバタフライⅠの開閉位置をかえることにより，また温度調節はバタフライⅡの開閉によつて温風と冷風との風量の割合をかえて行ないます。

Ⅱを全開すれば（ヒータ コントロールのTEMPをHIGH），冷風はしや断されすべてラジエータを通過した温風となつて車内を暖めます。Ⅱを全閉すれば（ヒータ コントロールのTEMPをLOW），冷風はラジエータを通ることなくそのまま車内へ流れますので夏季クーリング ファンとしても使用できます。ヒータの吹出し口は，扉の角度および方向が任意にできますので温風の方向を変えられます。ヒータ吹出し口を閉じることによつて，フロント ウインドウ デフロスタ ノズルへ温風が流れます。デフロスタ吹出し口には風向調節の容易なルーバが左右各2個ついています。

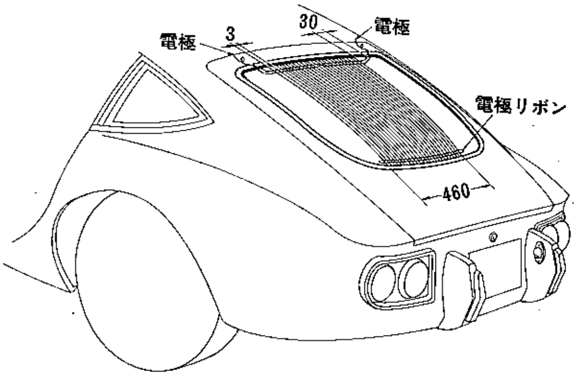
無断複製禁止

ヒータ仕様（温水流量 6 ℓ/minにて）

	低　速	中　速	高　速
送風量〔m³/h〕	140	220	280
消費電力〔W〕	70	100	140
回転数〔r.p.m〕	1,500	2,200	3,000
放熱量〔Kcal/h〕	1,700	2,500	3,100
型　式	内外気併用式		
暖房方式	エア ミツクス(風量調節)方式		

7-2　バツク ウインウド デフロスタ

バツク ウインドウ ガラスは熱線入り合わせガラスです。ヒータ コントロールのファン調節ノブを引き出すことによつてバツク ウインドウ ガラス内の熱線に電流が通じ，くもりをすみやかに除去します。



第101図　バツク ウインドウ デフロスタ　　G0101

バツク ウインドウ デフロスタ仕様

定格電圧	12V
消費電力	55W
全抵抗	2.67Ω
発熱部線径	0.04mm
発熱部線間隔	3mm
発熱部面積(横巾×高)	460×638mm

8.　インナ リヤ ビユー ミラーおよびアウタ リヤ ビユー ミラー

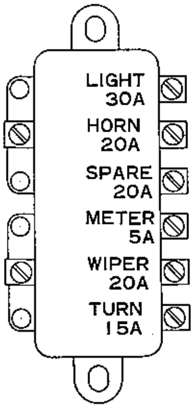
インナ リヤ ビユー ミラーはＶＧ型車と同じ昼夜切替式の防げんミラー（グレアプルーフミラー）で夜間走行時の安全性を高めています。アウタ リヤ ビユー ミラーは抵抗の少ない砲弾型ミラーです。ミラーの角度調整はミラー先端部の⊕ねじをゆるめて行ないます。

またミラー本体の内側半分は艶消し処理をし，反射を防止してあります。

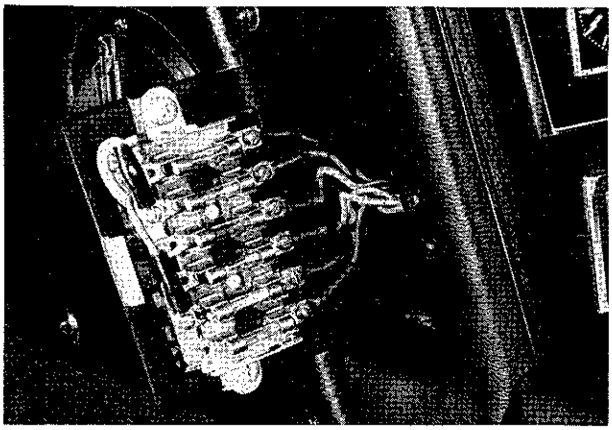
無断複製禁止

9. ヒユーズ ブロツク

ヒユーズ ブロツクは中央ダツシユ パネル左方のサービス ホールふたの裏側に取付けてあり，車内から点検が容易にできます。



第102図　ヒユーズ ブロツク　G0102



第103図　ヒユーズ ブロツク取付け位置　V2109

無断複製禁止